

通し番号	4428
------	------

分類番号	21-34-15-01
------	-------------

(成果情報名) ‘大津4号’の果実品質は後期摘果下垂着果法により向上する
[要約] ‘大津4号’に後期摘果下垂着果管理法を適用すると、隔年交互結実法に比べ果実品質がより向上し、商品性の高いLM級果実が効率的に生産できる。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・足柄地区事務所 連絡先0463-29-050

[背景・ねらい]

後期摘果下垂着果（以下、後期摘果）法は、早生及び普通温州で果実品質向上効果が確認されている。そこで、県内に普及している隔年交互結実（以下、交互結実）法との比較により、後期摘果法を隔年結果性が強く、大果になり易い‘大津4号’に適用し、品質向上と安定生産技術として確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1 後期摘果は、6月に強い新梢の芽かき、相互遮蔽部や枯れ枝及びすそ枝を剪除する程度の剪定を行い、8月中下旬頃までに果実の自重で枝全体下垂させる。その後、10月に大玉果及び小玉果を中心に摘果し、LM級果を中心に残す。
- 2 後期摘果を行うと糖度は交互結実に比べ高くなるが、クエン酸濃度、果皮色及び浮皮度は同等である(表1, データ一部省略)。
- 3 後期摘果法を毎年適用することにより、LM級果率は交互結実法に比べ高くなるが、樹容積当たりで評価するとほぼ同等である(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ‘大津4号’に後期摘果下垂着果管理法を適用する場合には、開始前年に内向枝、直上枝等の間引き剪定を行い、樹形を整えておく。

[具体的データ]

表1 ‘大津4号’における着果法による違いが果実品質に及ぼす影響

処 理 区	糖度(Brix%)				クエン酸濃度(%)				果皮色 ^y			
	06	07	08	09	06	07	08	09	06	07	08	09
後期摘果区	12.1	11.3	12.6	12.5	7.1	7.0	7.1	9.0	0.97	0.88	0.75	0.89
交互結実区	11.1	10.8	11.4	11.7	7.3	7.2	6.8	9.1	0.84	0.81	0.68	0.88
有意性 ^w	**	*	**	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns

z：数値は、1樹当たりL級果15果の平均

y：カンキツ用カラーチャートオレンジ色系(農林水産省果樹試験場作成)による

x：有意性は、t検定による(*は5%水準、**は1%水準で有意差あり)

表2 ‘大津4号’における着果法による違いがLM級果率及び樹容積当たりのLM級果数の4か年合計に及ぼす影響

処 理 区	LM級果率(%) ^z				樹容積当たりのLM級果数 ^y (果/m ³)
	06	07	08	09	
後期摘果区	67.0	68.3	70.6	69.3	54.5
交互結実区	56.2	54.9	58.8	56.6	57.1

z：LM級果率の交互結実区は、結実樹のみの平均

y：06-09の4か年の合計

[資料名]平成19、20、21年度試験研究成績書（カンキツ・キウイフルーツ）

[研究課題名] ‘大津4号’での後期摘果下垂着果法と隔年交互結実法の比較

[研究期間]平成17～21年度

[研究者担当名]川嶋幸喜・浅田真一・青木隆・眞壁敏明・松下一興